



## 学級担任の役割と担任を支える校内援助体制づくり

### ■ 児童生徒との 触れ合いを通じた 人間関係づくり

- 児童生徒との人間関係づくりについては、**児童生徒と触れ合う時間を確保し**、観察や声かけを行っていく中で醸成されていくものである。

- ◆ チェックシートや児童生徒名簿等を準備し、1日の終わりに言葉かけした児童生徒に○印を付けるとともに、言葉かけをすべき児童生徒を明確にし、翌日意図的に語りかけるなど、児童生徒との日常的な触れ合いを重視した取組を行っている学校がある。
- ◆ 生徒が1日の出来事や自分の思いなどを記入し、毎日学級担任に提出する「生活ノート」等に、担任が丁寧にコメントを記入し返してやるなど、多くの中学校で実施している対話ノートを活用し、生徒の変化等をとらえ、問題行動等の未然防止に結び付けている学校がある。

### ■ 学級づくりと 援助体制の構築

- 学級は、児童生徒によって自主的に選択された集団ではないということを認識しなければならない。未知の集団に対する期待と不安が入り混じる出会いの中で、安心した居場所として心の拠り所となっていく、よりよい学級集団の構築が何よりも大切である。

生徒指導を着実に進める上での基盤は学級であり、規範意識を育成するために、必要な場面では**毅然とした対応**を行いつつ、相手の身になって考え、相手のよさを見つけようとする児童生徒を育成するなど、**支持的な学級風土づくり**に努め、学級を一人一人の児童生徒の存在感を実感できる場として作りあげることが望まれる。

- ◆ 特に小学校の場合、問題を学級担任一人で抱え込んでしまう傾向がある。それを解消するために、次のような取組により、学級担任を支える校内援助体制の構築を図っている学校がある。
  - 欠席した児童への対応の基本線を定め、全教職員で共通理解・共通実践する。  
たった1日だけでも、欠席は児童に翌日の“登校しづらさ”をもたらすという意識をもつとともに、翌日の授業予定や配付物はその日のうちに必ず届くようにする。
  - 各学級の欠席状況を全教職員で把握する。  
欠席状況の報告を職員打合せ等に毎回位置付けたり、欠席者を記入する小黒板を職員室に設置し、ひと目で分かるようにしたりする。
  - 学年内での連携強化を図る。  
1か月累計3日の欠席で学年会議による協議を行うなど、まずは学年内で常に情報を共有化し、支え合う。

### ■ 教員の資質の向上

- 教職員は、児童生徒理解や個々の児童生徒への対応に関する資質の向上ばかりでなく、学級や学年運営等の望ましい集団の育成に関わる資質や能力を身に付けることも重要である。特に不登校対策の場合、不登校児童生徒に関する**事例研究やSCによるコンサルテーション**などを重ねていくこと自体が重要な研修の一つになる。

また、特別支援教育に関する正しい知識と理解も必要なことから、教育委員会や教育事務所の担当指導主事等を招いて校内研修を実施することも有効である。